

動物のストレスに関する総合的研究

— ストレス関連物質の示す意味合いについて —

獣医学群 / 獣医保健看護学類 / 動物集中管理研究室

佐野 忠士

[Tadashi Sano] 准教授 [博士(獣医学)]

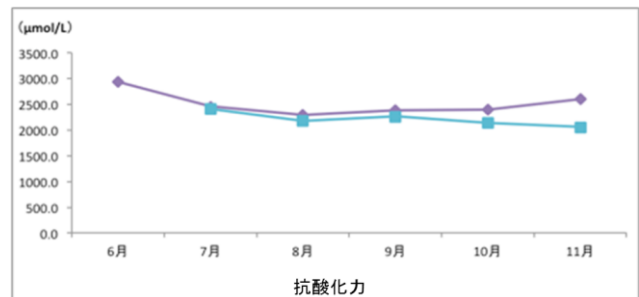
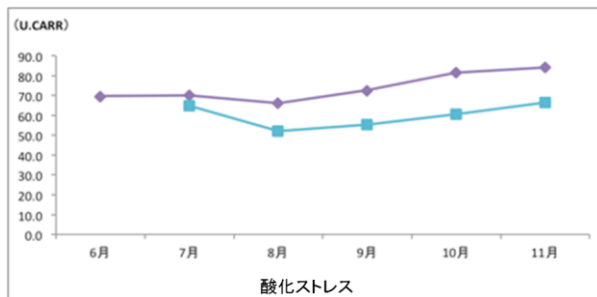
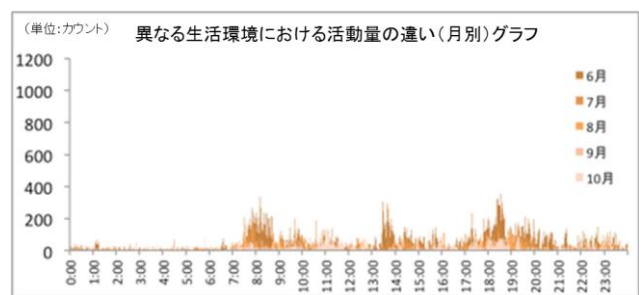
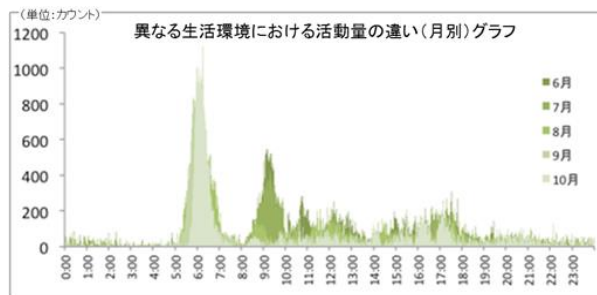


● 研究の概要

飼育環境の変化や、飼い主の対応、疾病やその治療により様々な「ストレス」を動物は受ける。しかし、その状態を適切に評価する方法は未だ存在しない。そこで本研究では動物の感じる「ストレス」を多面的に解析し、動物と人の両者にとって「快適な」環境の構築を目指すことを目的としている。

● 研究の内容・特徴

本研究では動物のストレスを活動量、ストレス関連物質、栄養状態など多面的に評価し、様々な疾病状態とその管理の適切性について評価することを目的としている。これまでの研究と異なり、複数のストレス関連物質の測定を組み合わせ、そこに活動量および睡眠、栄養状態などを組み込むことで動物の状態を複合的に評価する。また飼育環境がストレスへ及ぼす影響については、飼い主の生活リズムなども大きく影響すると考えられるため、飼い主の活動量も併せて評価を行い、動物と人の両者にとっての快適さを検討していく。ストレスの最大の原因となると予測される痛みの評価と治療も本研究の大きな目的の一つであり、言葉が話すことのできない動物の感じる痛みとその緩和について活動量、睡眠そしてストレス関連物質の組み合わせで評価することは非常に有用性が高い。



● 用途・応用例

- 適切な飼育環境の評価
- 犬種毎の適した運動量(散歩時間)の決定
- 効果的な鎮痛法の開発
- 動物の睡眠状態の把握
- 快適な飼育グッズ(犬・猫用ベッド)の開発
- 飼い主相互型活動量計の開発

● アピールポイント

伴侶動物(≒犬・猫)の飼育に関する情報は多々あるものの、その信憑性やエビデンスレベルは高くなく、ここへ寄与する様々なツールとなる研究である。特に今後、高齢動物が増加する状況において、快適さの追求は非常に魅力あるものと予想される。本研究の方法・内容は伴侶動物だけでなく生産動物への応用も可能であり、獣医療、畜産業、展示動物分野など様々な分野への応用が可能である。

● 本研究に関連する知的財産

発明の名称 :

特許番号 :

● 研究室のホームページ